

関西珠洲会だより

関西珠洲会

発行責任者
会長 宮崎 和夫

関西珠洲会 主催

天理でつながる！能登半島、助け愛プロジェクトを実施

日時：令和7年3月2日（日） 13:45～16:50

場所：天理市民会館（奈良県天理市）やまのべホール

主催：関西珠洲会 協力：天理大学雅楽部

後援：天理市，天理大学，株式会社モンベル，関西石川県人会連合会，南都大安寺，近畿日本ツーリスト株式会社，珠洲市，大和路秀麗八十八面観音巡礼会，大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館（敬称略・順不同）

- <第1部> 13:45～ 天理大学雅楽部による雅楽演奏（友情出演）
 14:00～ 関西珠洲会・宮崎和夫会長挨拶 / 有馬尚史監督挨拶
 14:03～ **ドキュメンタリー映画『凧が灯るころ ～奥能登、珠洲の記憶～』**
 上映（87分）
- <第2部> 15:40～ 馬縹キリコ太鼓保存会によるキリコ太鼓演奏
 16:05～ トークイベント：「珠洲」「祭り」「復興」



主催した関西珠洲会の運営スタッフ、登壇者・出演者、天理大学職員らと。親指で能登半島ポーズ。



天理大学雅楽部が友情出演

令和6年能登半島地震から1年2か月。関西珠洲会では、復興が遅々として進まない現状に苛立ちやもどかしさを覚えつつも、被災した珠洲の人たちを関西にお招きし、珠洲の現状と能登の文化をご自身の言葉で語っていただくことで少しでも「心の復興支援」につながればとの思いから、奥能登・珠洲が満載のイベントを企画しました。司会は幹事の押上晃広さんが務めました。

お陰様で、来場者**400名を超える大盛況のイベント**となり、奈良新聞と奈良テレビでも報道されました。



映画の一場面から（有馬監督提供）。2023年9月、
寺家の巨大キリコが港に集結。

今回のイベントは、3歳まで珠洲市大谷町で過ごした中祢勝美（関西珠洲会幹事、天理大学教授）が企画しました。

第1部で上映したのは、令和5年5月に発生した奥能登地震（最大震度6強）のあと、若い映像作家・有馬尚史さんが珠洲市で撮影したドキュメンタリー映画です。**祭りを成功させることで新型コロナや度重なる地震からなんとか町を復興させたい、そんな人々の奮闘や葛藤を描いた貴重な記録映画**で、奈良県では初めての上映となりました。

映画上映に先立ち、天理大学雅楽部の皆さんにオープニングを飾っていただきました。同部は2024年9月、特別養護老人ホーム長寿園など珠洲市の3か所で慰問公演を行いました。甚大な被害をもたらした奥能登豪雨の数日前のことです。

また、同部に所属する4年生の矢田美歩さんは珠洲生まれであるだけでなく、その父、矢田嘉伸さんは令和6年能登半島地震の僅か1週間後に「**珠洲ひのきしんセンター**」を立ち上げて以来、ボランティアの受け入れ拠点として被災者支援・復旧活動の先頭に立って働いておられます。このような**縁**があり、今回、**友情出演**をお願いし、ご快諾いただきました。感謝です。



馬縹キリコ太鼓保存会による熱演で会場が一体に。



トークイベントで語る石塚愛子さんと有馬監督。

第2部は**馬縹キリコ太鼓保存会**の皆さんによる勇壮な演奏でスタート。地震で太鼓が損傷してしまいましたが、国内外から**（公財）日本太鼓財団**に寄せられた寄付によって新調された太鼓を馬縹町から持参し、感謝を込めてカー杯演奏。客席からも「ヤッサー、ヤッサー」の掛け声と温かい手拍子が沸き起こり、会場がひとつになりました。



最後の**トークイベント**では、**有馬監督**のほか、馬縹キリコ太鼓保存会の**小秀一**さん、**南誠**さん、**豊平慶彦**さん、和洋菓子店「メルヘン日進堂」代表の**石塚愛子**さん、珠洲から大阪に二次避難されている**鶴島善博**さん（春日神社元氏子総代）が登場し、経験した地震の被害や発災直後の行動、遅れている復興の現状、祭りが持っている意味などを、それぞれの立場から思いを語っていただきました。

今回のイベントは奈良テレビのニュースでも紹介されました。上の**QRコード**からご視聴下さい。

なお、『凧が灯るころ…』の上映会は3月1日（土）に長岡京市立中央公民会館でも開催され、関西珠洲会は「協賛」というかたちで関わらせていただきました。